

令和5年度 第1回「地域連携担当者」等新任研修 開催報告

- 趣旨** 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** 市町立小学校・中学校・義務教育学校、県立中学校・高等学校・特別支援学校において、「地域連携担当者」等の校務分掌に新たに位置付けられた教職員、またはそれに準ずる者
- 日時** 令和5年5月23日（火） 14:00～16:30
- 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
オンライン（Zoom）併用による開催
- 内容**
 - 開講式
 - 研修の概要説明
 - 講演「地域連携担当者とコミュニティ・スクール」
講師 高木 和久 氏（元 文部科学省 総合教育政策局 CSマイスター）
 - 「しが学校支援センター」の紹介
- 参加者数** 125名（来場39名、オンライ86名）



8 講演の概要

不登校の子どもたちの増加、地域のコミュニティの衰退、地域福祉の基本である共助の衰退等を理由に、「地域コミュニティ」から「テーマコミュニティ」へと移行してきている。社会の激しい変化の中でも、何が重要かを「主体的に判断」すること、多様な人々と「協働」すること、新たな価値を「創造」とともに新たな問題の「発見・解決」につなげていくことが今後求められる。

コミュニティ・スクールによって、学校・地域・家庭が3～5年後を見通した長期のビジョンを共有し、子どもをどう育てるかを明確にすることが大切であり、社会に開かれた教育課程の実現のためのカリキュラム・マネジメントが重要であることを御教示いただいた。

最後に、決められたことを自ら率先して取り組む「自主性」よりも、自分の意志や判断で行動する「主体性」が大切であると締めくくられ、参加者にとって各学校での取組のヒントを得られる場となった。

9 参加者のアンケートより

- ・管理職が中心となりCSが行われているので、教職員にも伝わりやすくするため、地域連携担当者であるミドルリーダーがつかないでいくことが大切であると思いました。PDCAサイクルで年々バージョンをあげていきたいです。
- ・本校のビジョンを再度確認し、私自身の強みは何かを考え、職員一人ひとりの強みを活かして生徒の成長そして主体的に取り組むことができる活動、取組を考えてみたいと思いました。

- ・「ビジョンが曖昧だと子どもは育たない。」「支援と体験だけで終わらず、子どもたちが自ら考え主体的に活動するところまでもっていかなければいけない」という話が心に残りました。
- ・「高校生が社会のために何ができるか」という視点を持つことの重要性を教えていただきました。
- ・地域連携担当者として、地域と学校をつなぐ重要な役割を担っていることを再認識しました。地域資源をうまく活用できるように校内体制を調整したり、よりよく地域と協働したりして、社会に開かれた教育課程を実現できるようにしたいです。
- ・「におねっと」の存在は知っておりましたが、内容までは十分に理解しておりませんでした。大変充実したコンテンツが用意されているので、本校の教員にも周知させていただきます。
- ・交通安全教室の出前授業を実施する際に、「しが学校支援センター」を利用しました。

